放送大学面接授業Ｒ１年　第２学期

一歩進んだ生物学実験

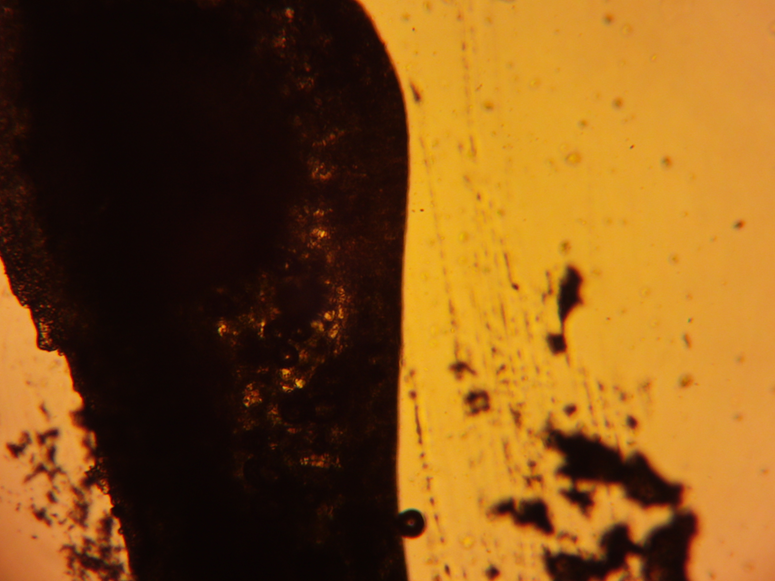
実験場所：東京文京学習センター

実験日：２０１９年１０月２７日（日）１～４限

グループＢ１：渡嘉敷　英亮

学生番号：172-006712-7

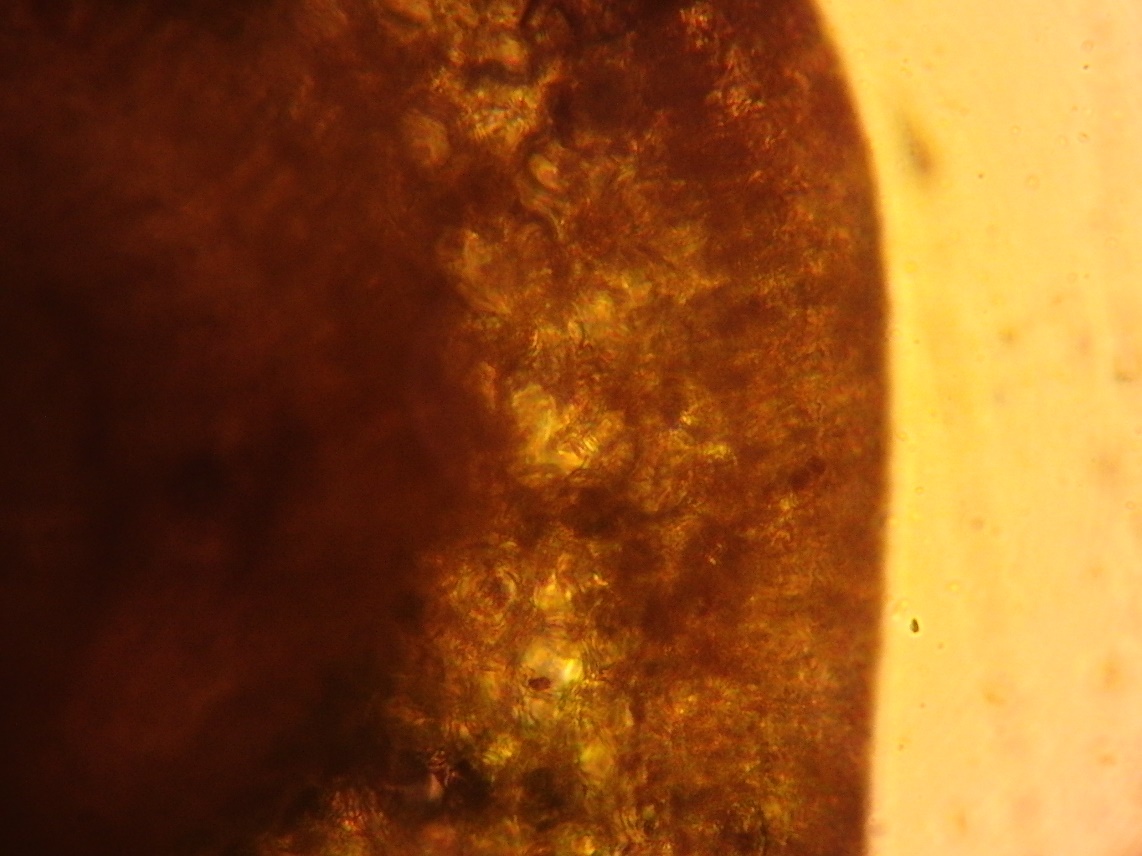
共同実験者：稲葉　広樹



**100 μm**

図１　ツバキの葉の横断面切片

　切片が厚いため維管束が不明瞭。



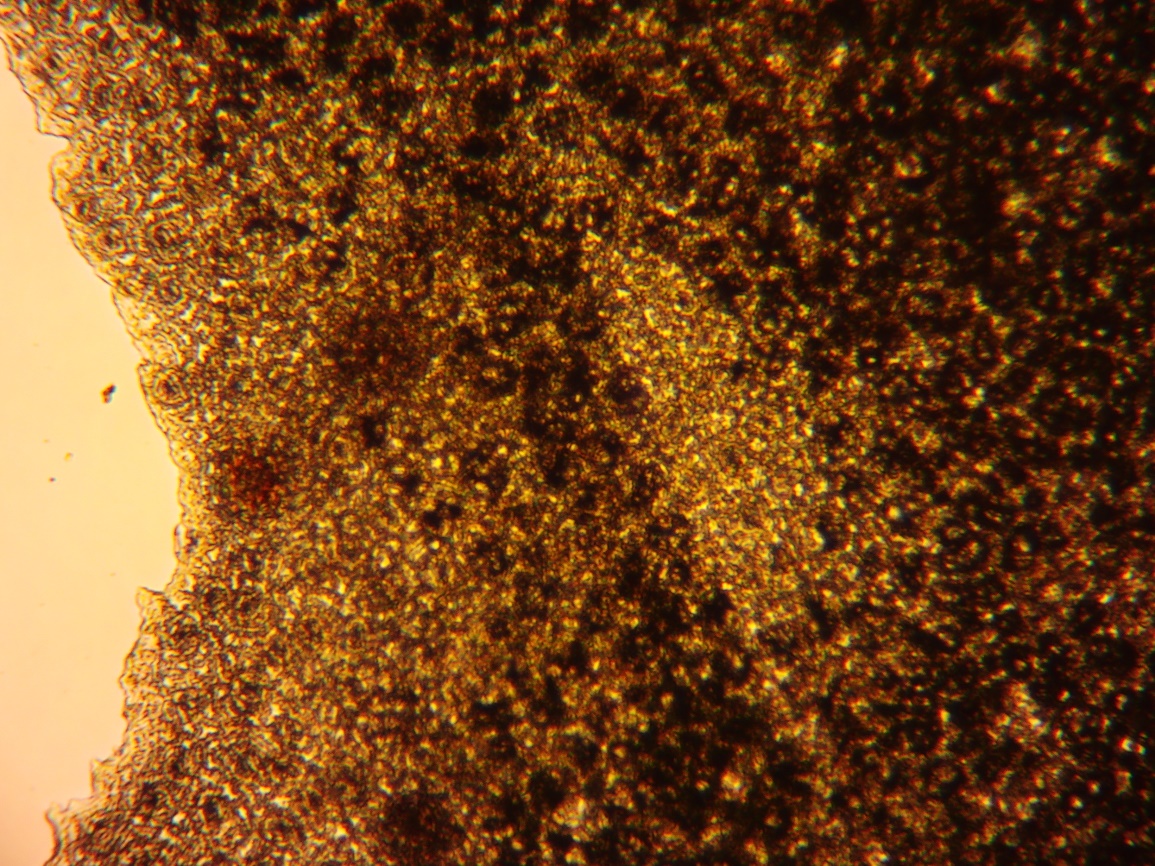
海面状組織

**100 μm**

表皮柵状組織

図2　ツバキの葉の横断面切片

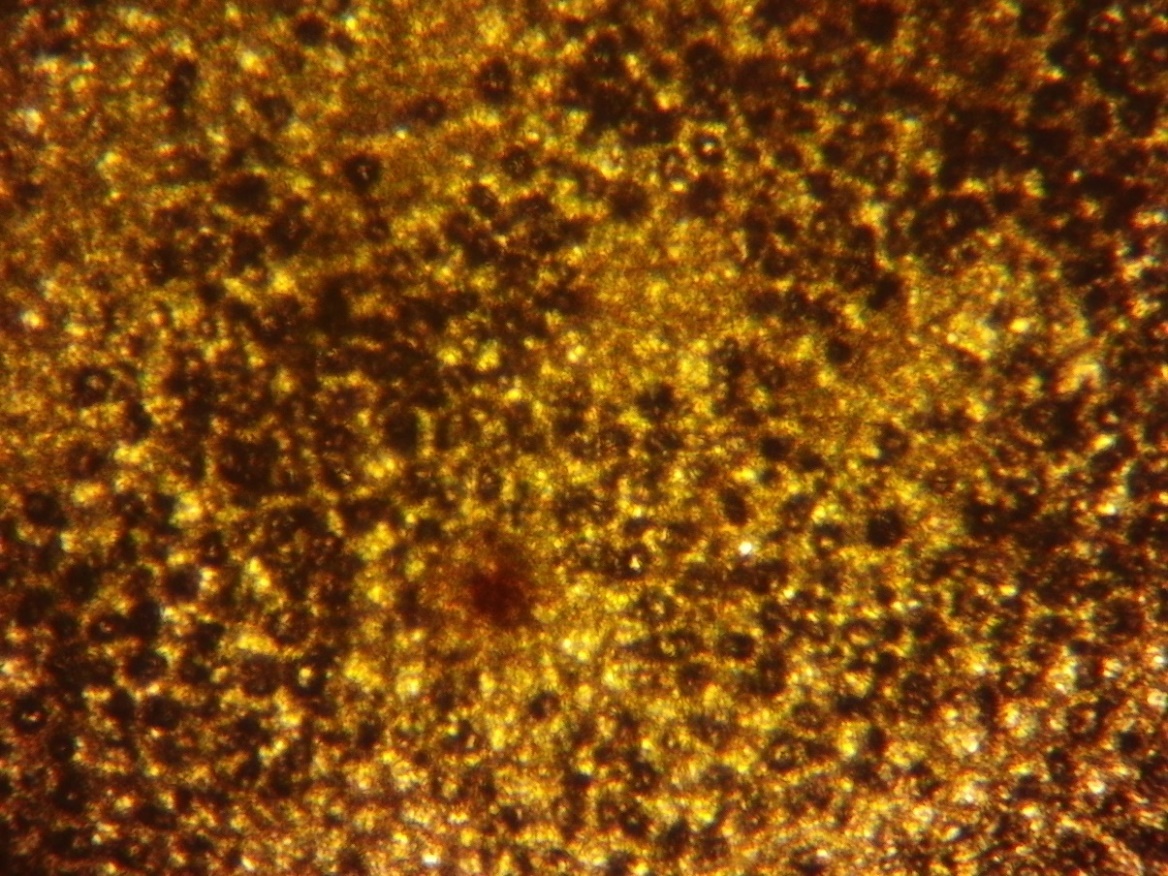
表皮柵状組織及び海綿状組織が観察できる。



**20 μm**

図3　ツバキの葉の下面表皮

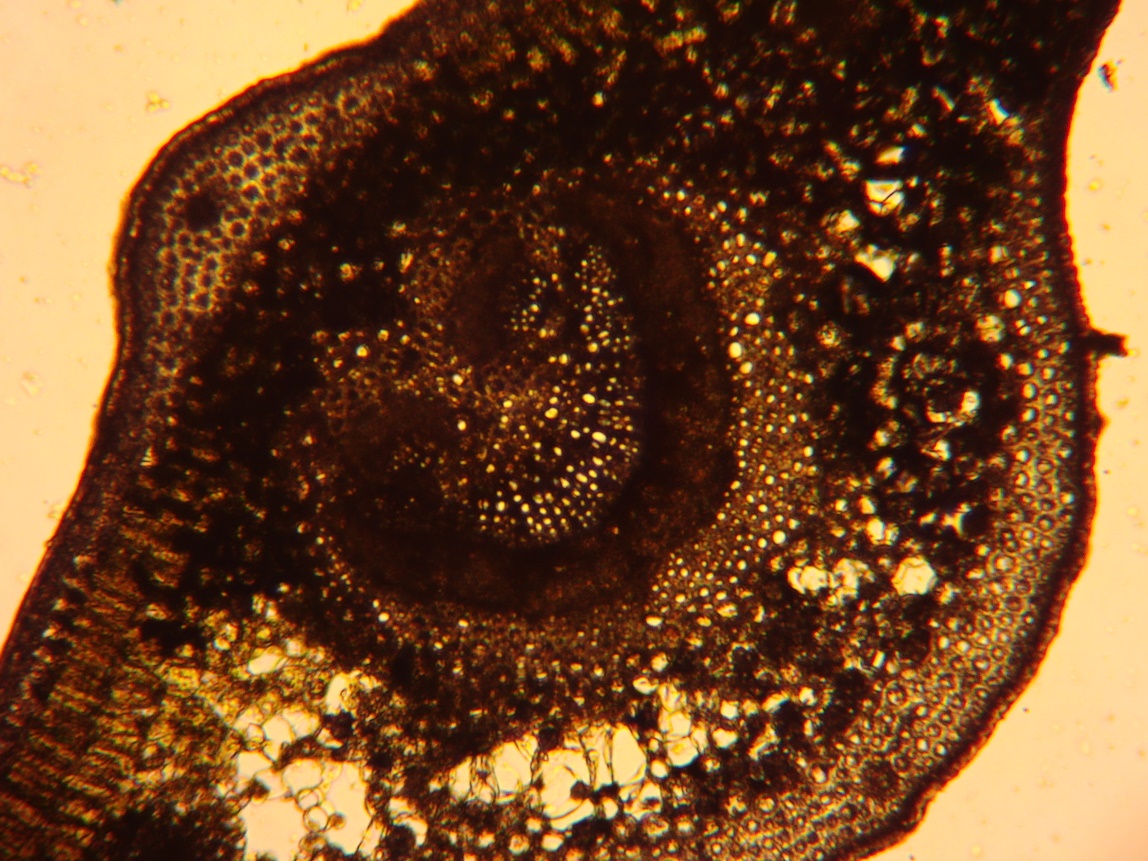
　　　細胞組織の形状が観察できる。



**20 μm**

気孔

図4　ツバキの葉の気孔



**100 μm**

表皮柵状組織

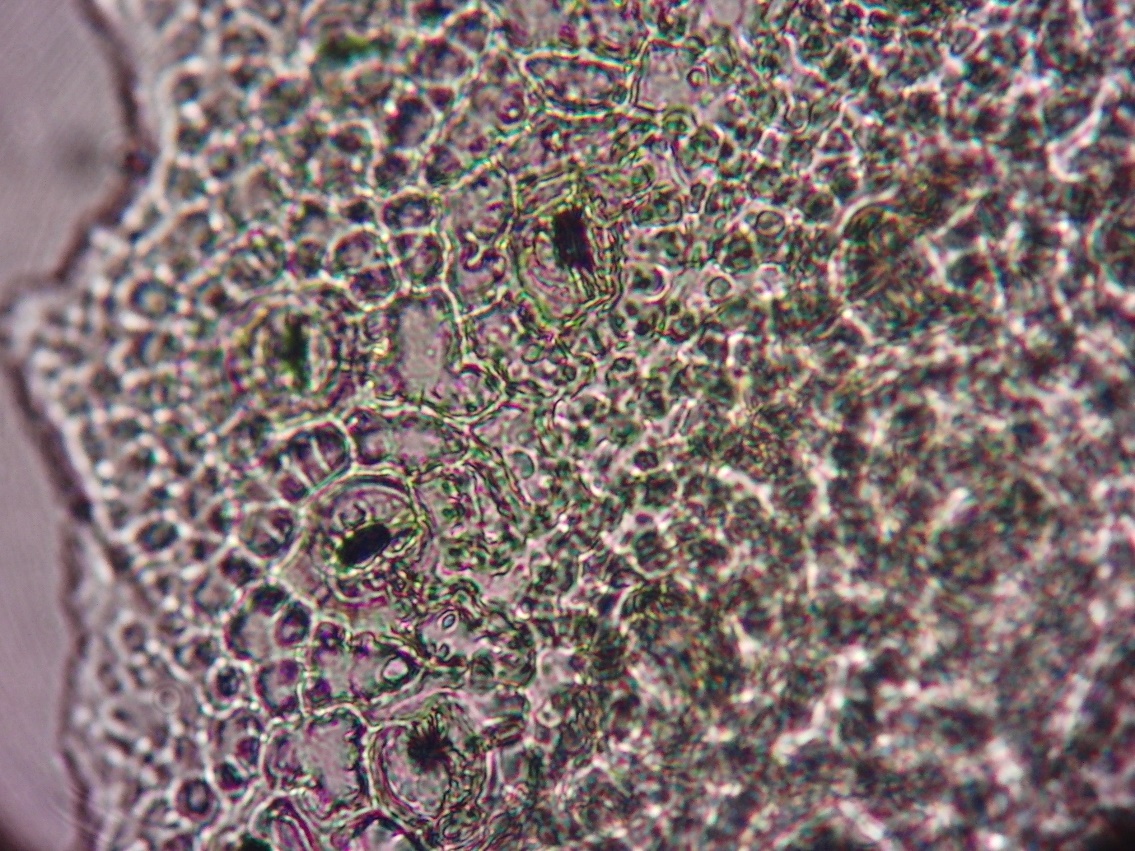
表皮

海綿状組織

維管束横断面

図5　ヤツデの葉の横断面切片

　表皮、柵状組織、海綿状組織が見られ、中央に維管束が観察できる。



**20 μm**

気孔

図6　ヤツデの葉の下面表皮

　　　細胞壁がはっきりしており、気孔の周辺には葉緑体が観察できる。

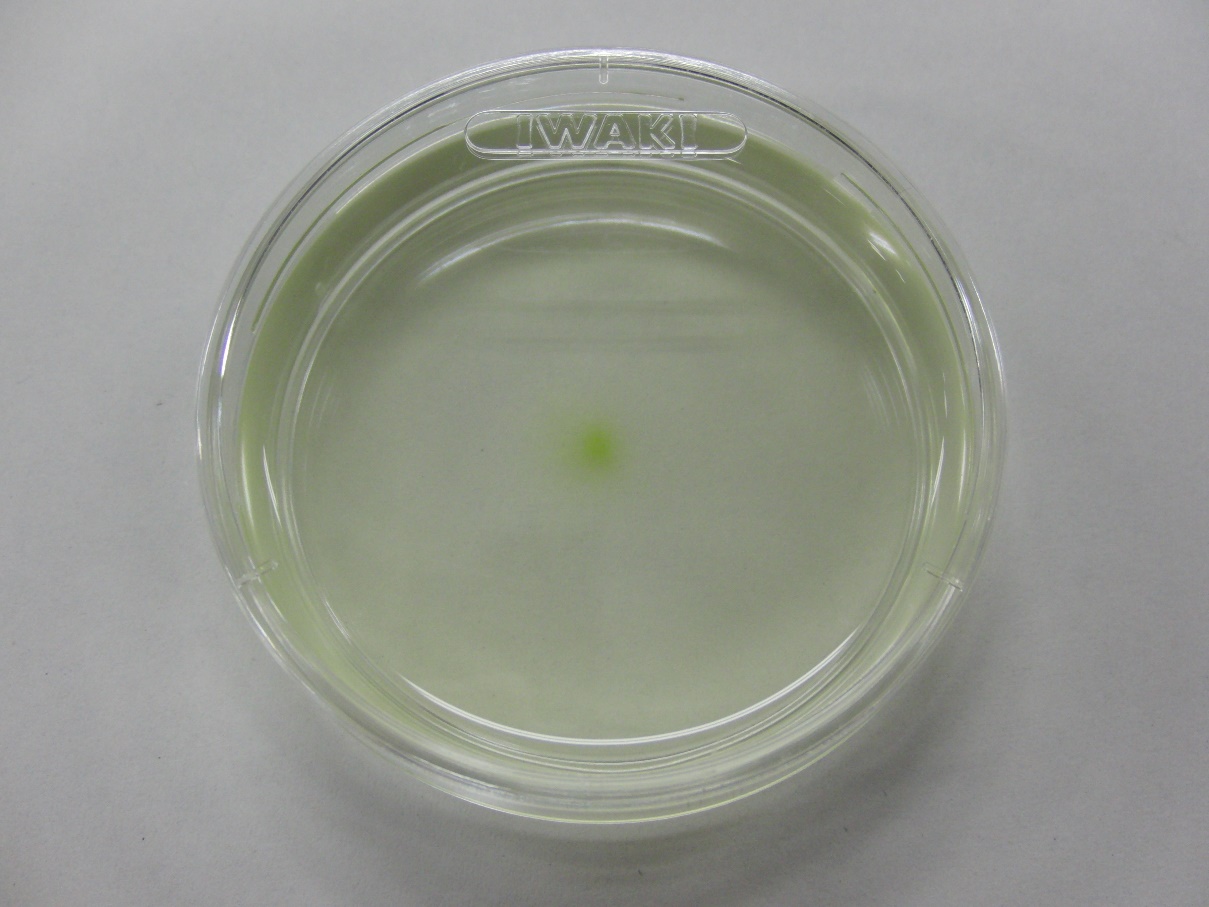


図7　クラミドモナスの光応答（実験前）中央付近に生物対流している。

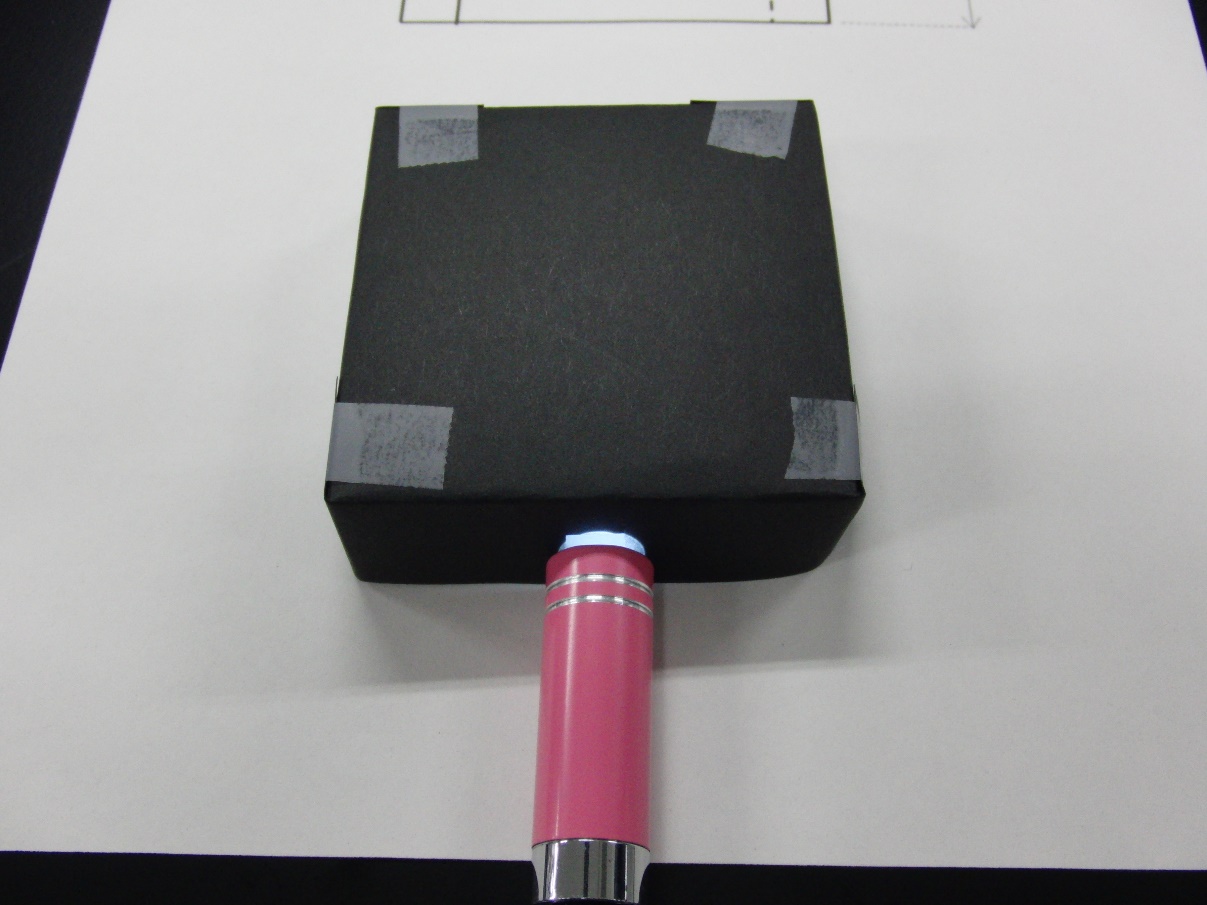


図8　実験装置　黒紙で箱を作り遮光し、1カ所のみ光を当てる。

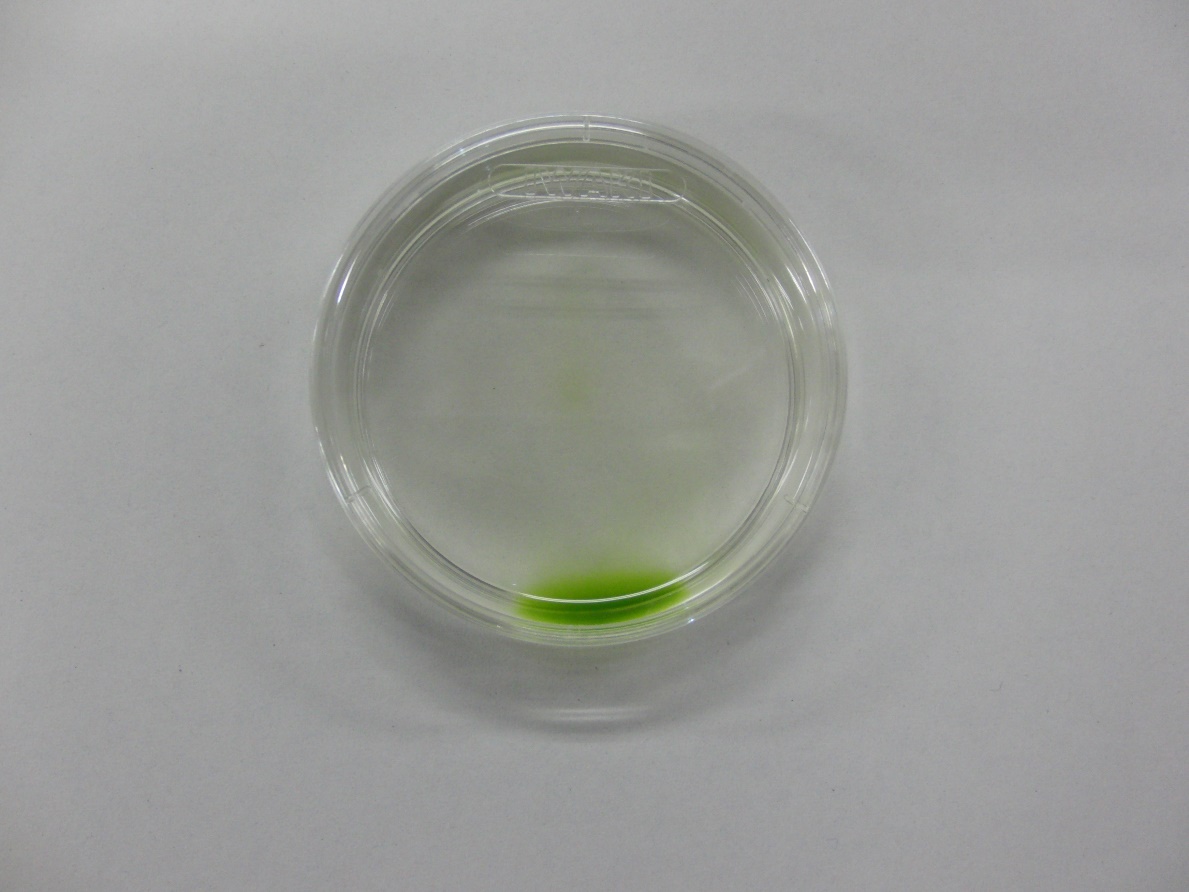
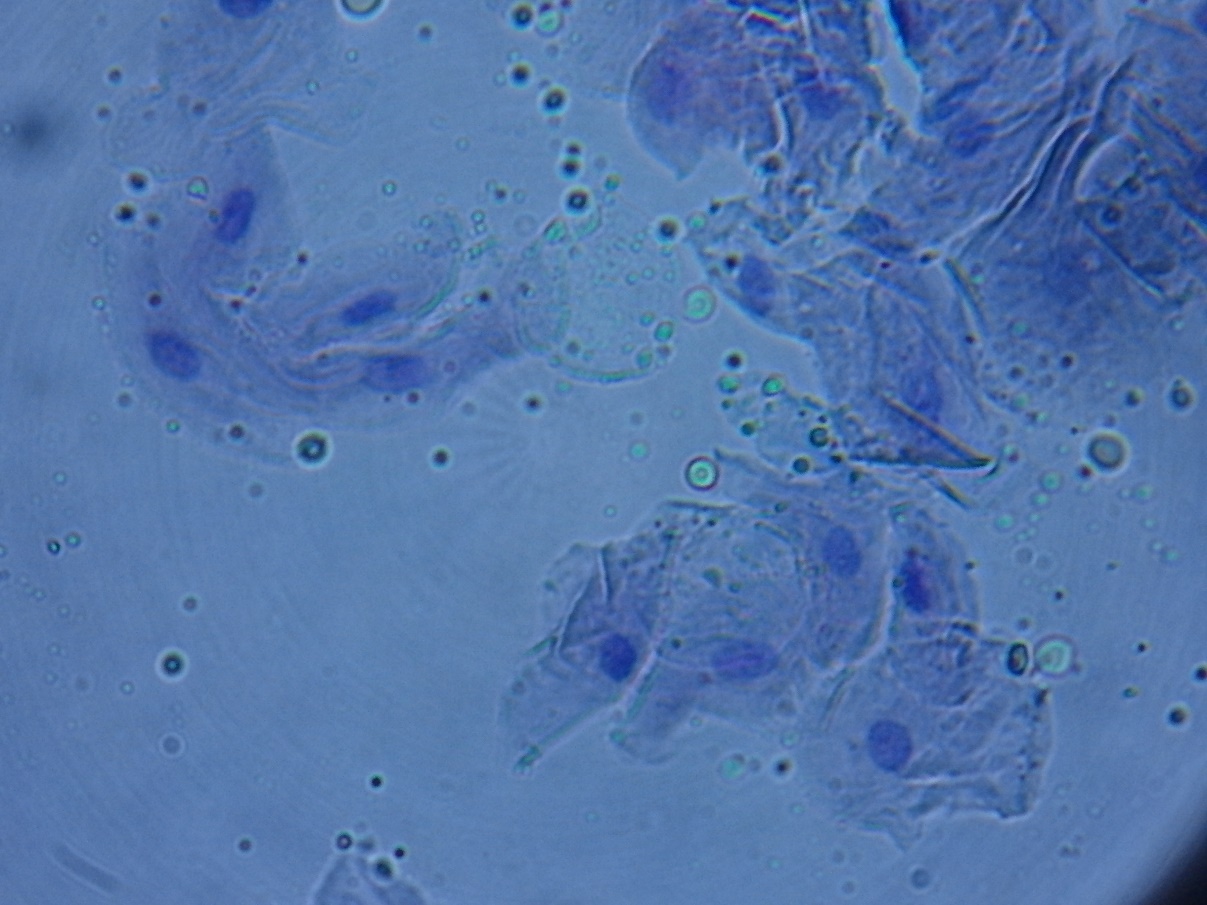


図9　クラミドモナスの光応答（実験後）光を当てた一カ所に集まっている。



**50 μm**

細胞壁

核

図10　ギムザ液で染色したヒトの口腔粘膜上皮細胞　（20倍）

　　　 細胞壁と核が観察できる。